

1. 本授業科目の基本情報

講義名（コード）	TGB104A	TGB_ビジネスマナーⅡ_A	
科目名（コード）	TGB104	TGB_ビジネスマナーⅡ_A	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位30
授業担当者	浅沼 渉	時間数	
成績評価教員	浅沼 渉	講義期間	秋期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄			

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	人間力における、社会人教育分野の学びの中で、学生が自己理解、管理能力向上の基礎を理解し、ビジネス実務マナー知識の習得、及び演習を通してビジネス社会の基本ルールを理解できるようになる。
全体の内容と概要	ビジネスマナーにおける基本的な知識を学び、ビジネスマナーにおける実践力、社会人としてのマナーを身につける。ビジネス実務の遂行に必要な一般知識の習得、業務遂行を行うのに必要な技能の取得を目指す。
授業時間外の学修	授業開始までに、必ず一読してくる。復習課題としてレポートの提出を求めることがあります。
履修上の注意事項等	マナーの授業であると心得、授業中の態度、及び言葉遣い等に気をつけること。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	前期のおさらい	前期で学んだビジネスマナーのおさらい
2	Session 1: 7 配慮のある話し方	日本での基本ビジネスマナーを学ぶ 教科書の基礎知識を学ぶ
3	Session 2: 8 話の進め方	日本での基本ビジネスマナーを学ぶ 宿題の確認 教科書のケーススタディを実践する
4	Session 3: 1 時間厳守	教科書の基礎知識を学ぶ
5	Session 4: 2 就業時間	日本での基本ビジネスマナーを学ぶ 宿題の確認 教科書のケーススタディを実践する
6	Session5: 3 身だしなみ	教科書の基礎知識を学ぶ
7	Session6: 4 あいさつ	日本での基本ビジネスマナーを学ぶ 宿題の確認 教科書のケーススタディを実践する
8	Session 7: 6 報告・連絡・相談	教科書の基礎知識を学ぶ
9	Session 8: 8 ハラスメント	日本での基本ビジネスマナーを学ぶ 宿題の確認 教科書のケーススタディを実践する
10	Session 9: 6 贈答のマナー	教科書の基礎知識を学ぶ
11	Session 10: 7 食事のマナー	日本での基本ビジネスマナーを学ぶ 宿題の確認 教科書のケーススタディを実践する
12	Session 11: 8 お酒のマナー	教科書の基礎知識を学ぶ
13	Session 12: 1 名刺の扱い方	日本での基本ビジネスマナーを学ぶ 宿題の確認 教科書のケーススタディを実践する 期末試験レビュー
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	留学生・日本で働く人のためのビジネスマナーとルール（改訂版） 武田聡子・長崎清美著
参考文献・資料等	日本電御就職活動ケーススタディ
備考	

1. 本授業科目の基本情報

講義名（コード）	TGB108A	TGB_ビジネス英語Ⅱ_A	
科目名（コード）	TGB108	TGB_ビジネス英語Ⅱ_A	
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2年生
対象コース	GB1	単位数	2単位30
授業担当者	福島 ジェニー	時間数	
成績評価教員	福島 ジェニー	講義期間	秋期
実務者教員	いいえ	履修区分	
実務者教員特記欄			

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	The objective of this class is to target the specific needs and level of proficiency in communication on how students can express a well structured and concrete ideas from descriptive research,
全体の内容と概要	Each lesson students will enhance their English language communication competence ability. It provides a wide range of learning opportunities to express students' way of learning by doing
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	授業スケジュールと内容は、進行状況や祝日や学校行事等との兼ね合いで調整される可能性がある。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	Enable the students to provide learning opportunities through	Unit 14: The history of parachutes - Class Activity (Research and presentation: The history of parachutes, the evolution and innovation of
2	Enable the students to provide learning opportunities through	Unit 15: Microchips- Class Activity (Discussion and debate: The advantages and disadvantages of putting microchips in human body)
3	Enable the students to provide learning opportunities through	Unit 16: The new Bioco- Class Activity (Research and presentation: The right medicines for certain diseases, how reliable the modern medicine to
4	Enable the students to provide learning opportunities through	Unit 17: The resourceful landlord- Class Activity (Opinion: Why is being resourceful important, how to develop resourcefulness)
5	Enable the students to provide learning opportunities through	Unit 18: The first organ transplant- Class Activity (Debate: Pro and Con Gift of life for a living donor)
6	Enable the students to provide learning opportunities through	Unit 19: The north star- Class Activity (Presentation: National holidays and Festivals
7	Enable the students to provide learning opportunities through	Unit 20: Dressed to excess-Class Activity (Presentation: Historical fashion trends VS. Modern fashion trends)
8	Enable the students to provide learning opportunities through	Unit 21: Amazing Komodo Dragons- Class Activity: (Research: Komodo Dragons)
9	Enable the students to provide learning opportunities through	Unit 22: Greek magical papyri-Class Activity (Discussion: Famous magic spells in your country)
10	Enable the students to provide learning opportunities through	Unit 23: Dangerous bites- Class Activity (Presentation: Fatal bites)
11	Enable the students to provide learning opportunities through	Unit 24: A The Lydian King- Class Activity (Group Discussion: Creating an empire in our current society, how it works to live a fulfilling life)
12	Enable the students to provide learning opportunities through	Unit 25: The end of smallpox- Class Activity(Presentation: How can we protect and prevent ourselves from any diseases)
13	Enable the students to provide learning opportunities through	Unit 26: Epidemic in Zimbabwe- Class Activity (Research and presentation: The corona pandemic)
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	4000 Essential English Words 4
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

講義名（コード）	TGB110A	TGB_TOEIC II_A	
科目名（コード）	TGB110	TGB_TOEIC II_A	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位30
授業担当者	アーネスト・バナーマン	時間数	
成績評価教員	浅沼 渉	講義期間	秋期
実務者教員		履修区分	必須
実務者教員特記欄			

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	Each student can gain confidence for several challenges for studying English and overcome those difficulties.
全体の内容と概要	Basic listenign and reading TOEIC practice
授業時間外の学修	Self study English word, grammar, and speaking
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	Casually review about previous semester studies	Basic study review and final exam feedback
2	Chapter 2: grammar practice Part 6: text completion ⑦clauses,	Explaining about the first part of TOEIC test
3	Chapter 2: grammar practice Part 6: text completion ⑦clauses,	Explaining about the first part of TOEIC test plus practice test
4	Chapter 2: grammar practice Part 6: text completion ⑨	Explaining about the first part of TOEIC test
5	Chapter 2: grammar practice Part 6: text completion ⑨	Explaining about the first part of TOEIC test plus practice test
6	Chapter 3: Reading Comrehension ①	Explaining some of the techniques and methods
7	Chapter 3: Reading Comrehension ②	Explaining some of the techniques and methods
8	Chapter 3: Reading Comrehension ③	Explaining some of the techniques and methods
9	Chapter 3: Reading Comrehension ④	Explaining some of the techniques and methods
10	Chapter 4: Practice Test ①	Taking practice test
11	Chapter 4: Practice Test ①	Taking practice test
12	Chapter 4: Practice Test ①	Taking practice test
13	Chapter 4: Practice Test ①	Taking practice test Final exam review
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	グローバルビジネス環境論Ⅱ		（ TGB1178 ）
講義名（コード）	TGB_グローバルビジネス環境論Ⅱ_A		（ TGB118A ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	小川 一幸	時間数	30
成績評価教員	小川 一幸	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	様々な国の仲間と国際社会を考える。異なる文化背景を持つクラスメイトの意見を聞きながら、国際社会で起きている事象を多角的な視点で捉え、自分の考えを述べる能力を養う。
全体の内容と概要	後期は、前期のマーケティングトピックスのプレゼンをベースに、5名程度のグループワークを行う。ベーシックなマーケティング手法を活用し、商品の販売企画を作成及びプレゼンテーションを行う。
授業時間外の学修	日々変化をするグローバルビジネスの現状把握を適宜行う。
履修上の注意事項等	グループワークでの作業分担に偏りがないように指導する。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画			
回	到達目標	授業内容	
		前半	後半
1	授業前半の座学部分を、後半のグループワークに活用する。	・ネーミングとパッケージ・製品のライフサイクル	グループワーク（役割・作業分担）
2	授業前半の座学部分を、後半のグループワークに活用する。	・ブランド戦略・マーケティングと価格	グループワーク（ブレインストーミング）
3	授業前半の座学部分を、後半のグループワークに活用する。	・臨界点（ブレイクポイント）・顧客満足（CS）	グループワーク（テーマ設定）
4	授業前半の座学部分を、後半のグループワークに活用する。	・マーケティングと価格	グループワーク（草稿1）
5	授業前半の座学部分を、後半のグループワークに活用する。	・臨界点（ブレイクポイント）	グループワーク（草稿2）
6	授業前半の座学部分を、後半のグループワークに活用する。	・顧客満足（CS）	グループワーク（草稿3）
7	授業前半の座学部分を、後半のグループワークに活用する。	・流通組織とチャネル	グループワーク（清書PC1） /PowerPoint or Keynote
8	授業前半の座学部分を、後半のグループワークに活用する。	・メーカーの営業組織と卸売、小売の関係	グループワーク（清書PC1） /PowerPoint or Keynote
9	授業前半の座学部分を、後半のグループワークに活用する。	・小売店の特徴と今後	グループワーク（清書PC2） /PowerPoint or Keynote
10	授業前半の座学部分を、後半のグループワークに活用する。	・AIDMAとプロモーション戦略	グループワーク（清書PC3） /PowerPoint or Keynote
11	授業前半の座学部分を、後半のプレゼンに活用する。	・広告戦略	グループワーク プレゼンテーション 1
12	授業前半の座学部分を、後半のプレゼンに活用する。	・メディア・ミックス	グループワーク プレゼンテーション 2
13	授業前半の座学部分を、後半のプレゼンに活用する。	・商品のライフサイクル・SP広告	グループワーク プレゼンテーション 3
14	授業前半の座学部分を、後半のプレゼンに活用する。	・期末試験	期末試験
15	授業前半の座学部分を、後半のプレゼンに活用する。	・グローバルビジネスのまとめ・期末試験返却	プレゼンテーション総評

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	・オリジナルプリント教材
参考文献・資料等	・新聞や関連新書のタイムリーなマーケティング関連教材を適宜参考
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	Entrepreneur概論 II		(TGB122)
講義名（コード）	Entrepreneur概論 IIA		(TGB122A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	横井 博文	時間数	30時間
成績評価教員	横井 博文	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は関連業界で活躍した講師による授業である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	スタートアップを志し、社会課題への関心が高く、多様性・包摂性を尊重したいと考えている学生を対象にスタートアップを立ち上げるために必要なスキルとマインドを体系的に学ぶ構成です。英語の理論枠組みはそのまま活用しながら、日本語で学びやすいように構成しています。 秋期は、ソーシャルイノベーションを形にするプロトタイプを構築し、社会的影響とチームリーダーシップの実践を深める
全体の内容と概要	インクルーシブ・イノベーションとソーシャルアントレプレナーシップ：みんなのために築く (英題：Inclusive Innovation & Social Entrepreneurship: Building for Everyone) - 多様性と包摂性を組み込んだプロダクト・サービス開発の基本を理解する - デザイン思考、スプリントモデル、ドラゴンフライ・エフェクトなどの手法を実践的に習得する - EQ (感情知性) や学習するリーダーシップを育成する - 実社会の課題を解決するプロトタイプを構築し、社会的影響を可視化する
授業時間外の学修	自分が起業するとして何をどうやるか？を常に考える
履修上の注意事項等	常に自分が起業する前提に立って授業に参加する

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	ピッチ改善とフィードバック反映	中間ピッチの振り返り Learning from Failure
2	リーダーシップ②	学習するリーダーシップと対話力 Learning Leadership
3	EQの深化	難しい対話のロールプレイ Emotional Intelligence (Self & Others)
4	チームリーダーシップ	心理的安全性・役割分担 Team Leadership/Google Aristotle
5	組織変革とスタートアップ	柔軟性・ビジョンの浸透 Change Management (Kotter)
6	ドラゴンフライ②	Grab Attention & Engage Dragonfly Effect (Storytelling)
7	ドラゴンフライ③	Take Action : 行動計画 Digital campaigns & MVP calls
8	MVP開発①	新スプリント : プロトタイプ再設計 Sprint 2.0 : 再実装
9	MVP開発②	ユーザーテストと改善 Test & Iterate
10	ソーシャルインパクトの設計	影響評価とロジックモデル Impact Measurement/Theory of Change
11	最終スプリントと検証	修正、実装、改善 User Feedback Cycle
12	最終ピッチ準備①	プレゼン資料構成 Pitch Deck : 社会的価値+ビジネス視点
13	最終ピッチ準備②	スライド作成・リハーサル Peer Review & Coaching
14	最終プレゼンテーション	公開発表会（学外ゲスト参加） Showcase Event ※予定
15	振り返りと今後の展望	個人エッセイ、学びの統合 Personal Growth Plan/Community Closing

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	Google流 ダイバーシティ&インクルージョン（アニー・ジャン＝パティスト）
参考文献・資料等	EQリーダーシップ 成功する人の「こころの知能指数」の活かし方（ダニエル・ゴールマン、他）、ソーシャルイノベーションの始め方（SSIR Japan）、これからの「社会の考え方」を、探しにいく。（SSIR Japan）、ソーシャルメディアで世界を変える ドラゴンフライ エフェクト（ジェニファー・アーカー）、SPRINT 最速仕事術——あらゆる仕事がうまくいく最も合理的な方法（ジェイク・ナッブ、他）
備考	本教員は、国内外にて（社会）起業をし、社会イノベーションの普及と推進に務めた。一方で、米国ペンシルバニア大学教育大学院博士課程（チーフラーニングオフィサー（CLO）専攻）の実務家研究員として最先端の研究にも従事している。こうした経験を活かしながら、企業団体、学校等の高等教育機関にてラーニング・組織変革の観点から指導を展開している。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	外国語試験対策Ⅱ(GB)		(TGB138)
講義名（コード）	TGB_外国語試験対策Ⅱ_A		(TGB138A)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	福島ジェニー	時間数	30
成績評価教員	福島ジェニー	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	To obtain an upper-intermediate CEFR/B2 level. To complete IELTS Bands 5-5.5 test mark course.
全体の内容と概要	Classroom Study Formats: Main Focus on Writing.
授業時間外の学修	Classroom exam information and advice activities. Self-study practice. Mock Practice tests.
履修上の注意事項等	The first semester was focused on Listening and Reading (Receptive skills) The second semester will focus on speaking and writing. (Productive Skills)

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	Can respond in an appropriate informal and formal manner in familiar family situations	Unit 1: Relationships Handouts: Modules for Reading & Grammar/Vocabulary
2	Can respond in an appropriate informal and formal manner in familiar family situations	Unit 1: Relationships Handouts: Modules for Listening & Speaking
3	Can identify familiar landmarks and monuments and what they represent to people	Unit 2: Places and Buildings Handouts: Modules for Writing
4	Can compare school/learning environments and curricula to determine what is valued	Unit 3: Education and Employment Handouts: Modules for Reading & Grammar/Vocabulary
5	Can compare school/learning environments and curricula to determine what is valued	Unit 3: Education and Employment Handouts: Modules for Listening & Speaking
6	Can identify and share with peers in another culture traditional/popular products and show how and why they might be familiar to them	Unit 4: Food and Drink Handouts: Modules for Writing
7	Can identify and compare the values that promote globalized products, such as efficiency and comfort	Unit 5: Consumerism Handouts: Modules for Reading & Grammar/Vocabulary
8	Can identify and compare the values that promote globalized products, such as efficiency and comfort	Unit 5: Consumerism Handouts: Modules for Listening & Speaking
9	Can compare how and why the options for sports and leisure activities vary depending on cultural attitudes	Unit 6: Leisure Time Handouts: Modules for Writing
10	Can identify examples of entertainment, social media, and literature and people's attitudes toward them.	Unit 7: Fame and the Media Handouts: Modules for Reading & Grammar/Vocabulary
11	Can identify examples of entertainment, social media, and literature and people's attitudes toward them.	Unit 7: Fame and the Media Handouts: Modules for Listening & Speaking
12	Can explain how people's practices or values contribute to environmental problems or solutions	Unit 8: Natural World Handouts: Modules for Writing
13	Review	
14	Term-Exam	
15	Feedback	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	Expert IELTS 5.0(Pearson)
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	社会人総合Ⅱ		（ TGB140 ）
講義名（コード）	社会人総合ⅡA		（ TGB140A ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	近藤 聖子	時間数	30時間
成績評価教員	近藤 聖子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	1年後の就職活動に備えて、SPI非言語・言語で高得点を取ること、履歴書の書き方等就職活動全般の準備をする
全体の内容と概要	SPIの言語、非言語、履歴書/志望動機の書き方を各30分ずつ行う
授業時間外の学修	授業中、必要があれば、指示する。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	前期の復習	前期の復習テストと解説
2		順列の問題 1 / 順列の問題 2
3		組み合わせの問題 1 / 組み合わせの問題 2
4		確率の問題 1 (サイコロとコイン) / 確率の問題 2 (カードと色玉など)
5		確率の問題 3 (「少なくとも」の場合) / 確率の問題 4 (応用)
6		集合の問題 1 (2つの場合) / 集合の問題 2 (3つの場合)
7		推論の問題 1 (順位を考える) / 推論の問題 2 (応用)
8		資料の読み取り問題 1 / 資料の読み取り問題 2
9		資料の読み取り問題 3 言語分野
10		言語分野 1
11		言語分野 2
12		後期のまとめ
13		後期のまとめ
14		期末試験
15		試験のフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	1日10分から始め(はじめ)るSPI'2024
参考文献・資料等	授業中、必要があれば、提示する。
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	社会人総合Ⅱ		（ TGB140 ）
講義名（コード）	社会人総合ⅡB		（ TGB140B ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	近藤 聖子	時間数	30時間
成績評価教員	近藤 聖子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	1年後の就職活動に備えて、SPI非言語・言語で高得点を取ること、履歴書の書き方等就職活動全般の準備をする
全体の内容と概要	SPIの言語、非言語、履歴書/志望動機の書き方を各30分ずつ行う
授業時間外の学修	授業中、必要があれば、指示する。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	前期の復習	前期の復習テストと解説
2		順列の問題 1 / 順列の問題 2
3		組み合わせの問題 1 / 組み合わせの問題 2
4		確率の問題 1 (サイコロとコイン) / 確率の問題 2 (カードと色玉など)
5		確率の問題 3 (「少なくとも」の場合) / 確率の問題 4 (応用)
6		集合の問題 1 (2つの場合) / 集合の問題 2 (3つの場合)
7		推論の問題 1 (順位を考える) / 推論の問題 2 (応用)
8		資料の読み取り問題 1 / 資料の読み取り問題 2
9		資料の読み取り問題 3 言語分野
10		言語分野 1
11		言語分野 2
12		後期のまとめ
13		後期のまとめ
14		期末試験
15		試験のフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	1日10分から始め(はじめ)るSPI'2024
参考文献・資料等	授業中、必要があれば、提示する。
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	MOS対策WORDⅡ		（ TGB142 ）
講義名（コード）	MOS対策WORDⅡA		（ TGB142A ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	近藤 聖子	時間数	30時間
成績評価教員	近藤 聖子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	1年後の就職活動に備えて、SPI非言語・言語で高得点を取ること、履歴書の書き方等就職活動全般の準備をする
全体の内容と概要	SPIの言語、非言語、履歴書/志望動機の書き方を各30分ずつ行う
授業時間外の学修	授業中、必要があれば、指示する。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	前期の復習	前期の復習テストと解説
2	文章を入力できる	Wordを使って、文章を打つ③
3	文章を作成できるようになる	Wordを使って、文章を作成する①
4	文章を作成できる	Wordを使って、文章を作成する②
5	文書の作成と管理ができるようになる	新規文書の作成と管理①
6	文書の作成と管理ができる	新規文書の作成と管理②
7	一般的なビジネス文書の基本ルールがわかる	ビジネス文書を打つ①
8	一般的なビジネス文書の作成ができるようになる	ビジネス文書を打つ②
9	一般的なビジネス文書の作成ができる	ビジネス文書を打つ③
10	レポートの作成の基本ルールがわかる	シンプルなレポート文書を打つ①
11	シンプルなレポートの作成ができるようになる	シンプルなレポート文書を打つ②
12		前期のまとめ
13		前期のまとめ
14		期末試験
15		試験のフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	授業中、必要があれば、提示する。
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	MOS対策WORDⅡ		（ TGB142 ）
講義名（コード）	MOS対策WORDⅡB		（ TGB142B ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	近藤 聖子	時間数	30時間
成績評価教員	近藤 聖子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	1年後の就職活動に備えて、SPI非言語・言語で高得点を取ること、履歴書の書き方等就職活動全般の準備をする
全体の内容と概要	SPIの言語、非言語、履歴書/志望動機の書き方を各30分ずつ行う
授業時間外の学修	授業中、必要があれば、指示する。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	前期の復習	前期の復習テストと解説
2	文章を入力できる	Wordを使って、文章を打つ③
3	文章を作成できるようになる	Wordを使って、文章を作成する①
4	文章を作成できる	Wordを使って、文章を作成する②
5	文書の作成と管理ができるようになる	新規文書の作成と管理①
6	文書の作成と管理ができる	新規文書の作成と管理②
7	一般的なビジネス文書の基本ルールがわかる	ビジネス文書を打つ①
8	一般的なビジネス文書の作成ができるようになる	ビジネス文書を打つ②
9	一般的なビジネス文書の作成ができる	ビジネス文書を打つ③
10	レポートの作成の基本ルールがわかる	シンプルなレポート文書を打つ①
11	シンプルなレポートの作成ができるようになる	シンプルなレポート文書を打つ②
12		前期のまとめ
13		前期のまとめ
14		期末試験
15		試験のフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	授業中、必要があれば、提示する。
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	MOS対策EXCEL II		(TGB144)
講義名（コード）	MOS対策EXCEL II		(TGB144)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	木内恵里子	時間数	30
成績評価教員	木内恵里子	講義期間	秋期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は、実務経験者による授業科目である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	人間力における、社会人教育分野の学びの中で、学生がビジネスで使用されるデータ管理に必要なICT活用を習得しMOS Excel 2021/365に合格できるExcelスキルを身に付ける。
全体の内容と概要	ビジネスに必須のMicrosoft Excelに関する中級レベルの操作スキルを身に付け、効果的なデータの集計・編集方法、実践的なワークシートやブックの管理を学ぶ。
授業時間外の学修	学習に使用するファイルはFOM出版のサイトからダウンロードできる。授業内でつまづいた部分などは各自復習しておくこと。
履修上の注意事項等	Excelの基本操作は既習の前提で講義を進めるので、リボンやタブの使い方に慣れておくこと。尚、授業進度により、適宜内容を変更する場合がある。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	ガイダンス・前期学んだことが実践できる	Excelの基礎復習と演習、他ソフトとの連携
2	効率的な表作成ができる	データの入力、表作成（前期の復習を含む）
3	シートの管理ができる	複数シートの操作
4	Excelで作成した表を印刷できる	表の印刷、ページレイアウト設定
5	グラフやオブジェクトの作成ができる	グラフの作成、グラフの書式設定（前期の復習を含む）
6	効率的なデータの活用ができる1	Excelデータベース機能の利用1
7	関数を利用できる	関数と関数のネスト
8	複雑な表を作成できる	表作成の活用
9	データを視覚的に表現できる	グラフの活用
10	視覚的な要素を表に追加できる	グラフィックの利用
11	効率的なデータの活用ができる2	Excelデータベース機能の活用2
12	データを多角的に分析できる	ピボットテーブルとピボットグラフの作成
13	便利な機能が利用できる	その他の機能、復習と演習
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	よくわかる Microsoft Excel 2021ドリル（FOM出版）
参考文献・資料等	留学生のためのかんたんExcel入門（技術評論社）：前期教科書
備考	スムーズな操作のために、各自、ビジネス関連科目の教科書などを復習し、日本でよく使われるビジネス用語と漢字の読み方を理解しておくことが望ましい。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	キャリアデザインⅡ		（ TGB148 ）
講義名（コード）	キャリアデザインⅡA		（ TGB148A ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	川本 千陽	時間数	30時間
成績評価教員	川本 千陽	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義・演習

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	自己のライフキャリアを見つめなおし、多様なキャリア形成の基礎を養うこと。自己のキャリア目標を詳細に設定し、記録し、振り返りできるようになること。
全体的内容と概要	専門学校へ進学した意味や目的を再確認し、必要なキャリア形成の知識・スキルを自ら調べてアウトプットできるようにする。
授業時間外の学修	不明点は授業時間外に学習者が調べ授業時間内に質問することとする。
履修上の注意事項等	学習者が自ら調べ、自分の意見をアウトプットさせて参加者のフィードバックを積極的に受けるスタイルとする。教員は学習者の発言を促し、授業全体をファシリテートすること。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	後期授業の方針説明/今後の就職活動/進学活動スケジュールの確認/進路希望調査/ 外国人留学生は特定技能1号（外食）マイページ登録
2	後期の目標進捗発表	前期に立てた自己の目標の進捗を振り返る。進路希望ごとに集まり「あるべき姿」 について話し合う。
3	進学についての理解を深める	3年次編入のスケジュール、応募条件、海外留学への準備スケジュール
4	自己理解	自己理解ツール（エゴグラム）を活用して自身の性格的特徴、得意分野を知る。グ ループ毎に集まり自分の特徴について発表する。
5	生成AIを自己PR作成に活用する。	生成AIを活用して自己PRを作成する。自分の性格的特徴や長所、エピソード（イン ターンシップ、アルバイト、ボランティアほか）をプロンプトに書いて発表。
6	起業について知る	グループごとに企業のメリット、リスクについて調べ発表する。外国人留学生は 「経営・管理」ビザについて調査する。
7	就職活動の選考試験①	面接選考の種類（グループ面接、個人面接）、筆記試験の種類、エントリーシート、自己PR 動画について調べる。代表者が模擬面接を受けて全員で振り返りを行う。
8	業界研究・求人票の見方	企業研究・業界研究をおこない自己の将来の進路選択の一助とする。就職支援アプ リ（マイナビなど）の登録
9	履歴書作成①	学校指定履歴書用紙に記入する。パソコンを使用してもよい。学歴・職歴欄の作 成。添え状（送付状）の書き方・（職歴がある場合）職務経歴書の書き方
10	履歴書作成②	自己PR文作成・志望動機の作成
11	就職活動の選考試験③	グループディスカッション対策。金魚鉢方式により代表者がグループディスカッ ションを行い、全員で振り返りを行う。
12	外国人留学生のための在留資格ガイ ダンス/就活キックオフ	外国人留学生のための在留資格、就職活動の進め方/就活早期化に伴う注意点・総括
13	キャリアガイダンス	就職活動早期化に伴う自己管理、スケジュール管理を行う。キャリアデザイン授業 の総復習。
14	期末試験	履歴書作成
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	授業の回数と順番は、ラーニングスキルの講義日程と調整するため、変動する可能性がありま す。

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	マクロ経済学		（ TGB155 ）
講義名（コード）	マクロ経済学A		（ TGB155A ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	横井 博文	時間数	30時間
成績評価教員	横井 博文	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は、実務者教員による授業である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	①経済学(けいざいがく)を身近(みじか)なことから考え(かんがえ)、社会人(しゃかいじん)/進学いずれにも必要(ひつよう)な知識(ちしき)を体系的(たいけいてき)に習得(しゅうとく)する Learn necessary knowledge about economics by thinking about the study as a daily-life issue. ②経済(けいざい)の動き(うごき)がビジネスや自分(じぶん)の生活(せいかつ)にどう影響(えいきょう)するかを理解(りかい)する Understand how economy affects your business and life.
全体の内容と概要	毎回(まいかい)双方向(そうほうこう)の質疑(しつぎ)応答(おうとう)と生活(せいかつ)の中(なか)での具体例(ぐたいれい)を挙げながら(あげながら)進める(すすめる) Conduct each class through mutual Q&A, raising daily-life example.
授業時間外の学修	アルバイトや生活(せいかつ)の中(なか)で、経済(けいざい)の問題(もんだい)を常に(つねに)考え(かんがえ)る Always think about economics issues in your side-business and daily life.
履修上の注意事項等	分からないことは完全(かんぜん)に分かる(わかる)まで質問(しつもん)する Should ask questions until you understand them completely enough to answer the similar questions

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	前期の内容（ぜんきのないよう）を理解する Understand what you learned in 1st term	前期の復習。Review what you have learned in 1st termマクロ経済とミクロ経済の違いを理解する。Understand the difference between macro/micro economics.
2	経済的合理性（けいざいてきごうりせい）を理解する Understand economical reasonability	経済的(けいざいてき)判断(はんだん)とは何か？ What is an economical judgement?
3	グローバル時代の経済を理解する Understand economy in the global ear	一国の経済が他国に与える影響（えいきょう） The effect of an economy of a company on other country
4	消費と生産の関係(しょうひとせんさんのかんけい)を理解する Understand the relationship between consumption/production	消費が増えれば生産も増えるか？ Is consumption co-related with production?
5	イノベーションとは何か？ What is innovation?	イノベーションは発明（はつめい）ではない Innovation is not necessarily an invention
6	経済ニユース用語を理解する Understand economy-related terminology	GDP, 金融(きんゆう)政策(せいさく)Financial policy、金利(きんり)interest
7	GDPを理解する Understand GDP	GDPは何を表すか？ What does GDP represent?
8	国債と社債(こくさいとしゃさい)を理解する	借金（しゃっきん）とは何か？ What is a debt?
9	資産・負債・資本（しさん・ふさい・しほん）の関係を理解する Understand the relation among asset, liability, and capital	資産・負債・資本とは皆さんにとって何か？ What are asset, liability, and capital for your lives?
10	経済史(けいざいし)を学ぶ Leran economic history	経済の歴史を学ぶのはなぜ必要か？ Why do we have to learn economic history?
11	為替(かわせ)市場(しじょう)を理解する Understand foreign currency market	円高・円安(えんだか・えんやす)はどうやって起こるか？ How is ¥ appreciation/depreciation developed?
12	インフレとデフレを理解する Understand inflation/deflation	インフレ・デフレはなぜ起きるか？ Why does inflation/deflation occur?
13	今後の世界経済を予測（よそく）する Forecast global economy in the future	今後の世界経済はどうなるか？ What will be a world economy in the future?
14	後期試験（こうきしけん）2nd term exam.	
15	後期試験の講評（こうひょう）Remarks on ↑	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	経済学見るだけノート、2030:世界の大変化を「水平思考」で展望する
参考文献・資料等	特になし
備考	『2030:世界の大変化を「水平思考」で展望する』の中から1つトピックを選び、チームで発表する（10分+Q&A（5分））

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	簿記・会計論Ⅱ		（ TGB160 ）
講義名（コード）	簿記・会計論ⅡA		（ TGB160A ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	中島 理士	時間数	30時間
成績評価教員	中島 理士	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	財務分析の基礎および管理会計
全体の内容と概要	計数感覚を身に着けビジネスに活用 1.決算書とは？ストックとフローの2つの性格 貸借対照表「資産」「負債」「純資産」にはどのようなものか 損益計算書 収益と費用はどのようなものか 2.損益計画と資金計画シミュレーション／計画順位とその手法／予測財務諸表の流れ／ 損益計画の基礎知識／目標指標の設定 3.簡単な財務諸表の見方、その-1 企業の稼ぐ力を見る（収益性分析）、売上高利益率と回転率 4.簡単な財務諸表の見方、その-2 企業の財務リスクを見る、自己資本比率・流動比率・固定比率 5.簡単な財務諸表の見方、その-3 分析した結果を基にグループディスカッション、講評 Developing Numerical Sensitivity and Applying It to Business What Are Financial Statements? The Two Aspects of Stock and Flow Understanding the components of the balance sheet: "Assets," "Liabilities," and "Equity" Understanding the income statement: Revenue and expenses Profit and Cash Flow Planning Simulations Planning priorities and methods The flow of projected financial statements Basic knowledge of profit planning and setting target indicators Basic Interpretation of Financial Statements - Part 1 Assessing a company's earning power (profitability analysis) Understanding profit margins and turnover ratios
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	講義は日本語のみ 電卓（12桁以上）・教科書・筆記用具は必ず持参の上受講すること。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	9/30 財務諸表の基礎理解	(財務諸表、B/S・P/L) 報告式損益計算書
2	10/7 財務諸表の基礎理解	(財務諸表、B/S・P/L)
3	10/14 財務諸表の基礎理解	キャッシュフロー計算書(入門)
4	10/21 意思決定会計基礎	意思決定会計入門
5	10/28 日常の取引の基礎理解	演習
6	11/4 日常の取引の基礎理解	演習
7	11/11 決算の基礎理解	演習
8	11/18 決算の基礎理解	演習
9	11/25 財務分析	財務分析基礎
10	12/2 財務分析基礎	収益性・安全性・効率性(プリント)
11	12/9 財務分析基礎	管理会計・CVP分析(プリント)
12	1月13日	財務分析演習
13	1月20日	前期末試験に出題されそうなテーマを解説します。
14	期末試験	
15	追試	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	日商簿記3級合格テキスト・日商簿記3級トレーニング(TAC出版)
参考文献・資料等	日商簿記2級合格テキスト商業簿記・工業簿記(TAC出版)・経営分析の基本(日本経済新聞出版社)その他、簿記・会計に関する資料。
備考	簿記・会計論Iの復習を含みます。

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	簿記・会計論Ⅱ		（ TGB160 ）
講義名（コード）	簿記・会計論ⅡB		（ TGB160B ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	中島 理士	時間数	30時間
成績評価教員	中島 理士	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	財務分析の基礎および管理会計
全体的内容と概要	計数感覚を身に着けビジネスに活用 1.決算書とは？ストックとフローの2つの性格 貸借対照表「資産」「負債」「純資産」にはどのようなものか 損益計算書 収益と費用はどのようなものか 2.損益計画と資金計画シミュレーション／計画順位とその手法／予測財務諸表の流れ／ 損益計画の基礎知識／目標指標の設定 3.簡単な財務諸表の見方、その-1 企業の稼ぐ力を見る（収益性分析）、売上高利益率と回転率 4.簡単な財務諸表の見方、その-2 企業の財務リスクを見る、自己資本比率・流動比率・固定比率 5.簡単な財務諸表の見方、その-3 分析した結果を基にグループディスカッション、講評 Developing Numerical Sensitivity and Applying It to Business What Are Financial Statements? The Two Aspects of Stock and Flow Understanding the components of the balance sheet: "Assets," "Liabilities," and "Equity" Understanding the income statement: Revenue and expenses Profit and Cash Flow Planning Simulations Planning priorities and methods The flow of projected financial statements Basic knowledge of profit planning and setting target indicators Basic Interpretation of Financial Statements - Part 1 Assessing a company's earning power (profitability analysis) Understanding profit margins and turnover ratios
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	講義は日本語のみ 電卓（12桁以上）・教科書・筆記用具は必ず持参の上受講すること。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	9/30 財務諸表の基礎理解	(財務諸表、B/S・P/L) 報告式損益計算書
2	10/7 財務諸表の基礎理解	(財務諸表、B/S・P/L)
3	10/14 財務諸表の基礎理解	キャッシュフロー計算書(入門)
4	10/21 意思決定会計基礎	意思決定会計入門
5	10/28 日常の取引の基礎理解	演習
6	11/4 日常の取引の基礎理解	演習
7	11/11 決算の基礎理解	演習
8	11/18 決算の基礎理解	演習
9	11/25 財務分析	財務分析基礎
10	12/2 財務分析基礎	収益性・安全性・効率性(プリント)
11	12/9 財務分析基礎	管理会計・CVP分析(プリント)
12	1月13日	財務分析演習
13	1月20日	前期末試験に出題されそうなテーマを解説します。
14	期末試験	
15	追試	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	日商簿記3級合格テキスト・日商簿記3級トレーニング(TAC出版)
参考文献・資料等	日商簿記2級合格テキスト商業簿記・工業簿記(TAC出版)・経営分析の基本(日本経済新聞出版社)その他、簿記・会計に関する資料。
備考	簿記・会計論Iの復習を含みます。

1. 本授業科目の基本情報

講義名（コード）	TGB168	情報リテラシーⅡ	
科目名（コード）	TGB168	情報リテラシーⅡ	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位30
授業担当者	浅沼 渉	時間数	
成績評価教員	浅沼 渉	講義期間	秋期
実務者教員		履修区分	選択必修
実務者教員特記欄			

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	本学の教育理念に基づきキャリアを自ら形成・発展させ、企業や実社会の様々な分野で即戦力として活躍できることを目的として、ICT(情報通信技術)の基本スキルを習得する。
全体の内容と概要	職業人および職業人となる誰もが備えておくべき、ITに関する共通的な基礎知識を測る国家試験であるITパスポート資格取得に必要な知識を学ぶ。
授業時間外の学修	ITパスポートの過去問や類題を数多く解くこと。
履修上の注意事項等	MOS対策（WORD, EXCEL）の授業との関連性を意識して取り組むこと。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	データベースについて理解する	データベースとデータ操作、データベース設計、データの正規化
2	データベースについて理解する	データの抽出と論理演算、データの整列と集計、トランザクション処理
3	アルゴリズムとプログラミングについて理解する	アルゴリズムとデータ構造、擬似言語、プログラム言語とマークアップ言語
4	マネジメントについて理解する	企画・要件定義プロセス、開発プロセス、テスト手法と運用・保守プロセス
5	マネジメントについて理解する	ソフトウェア開発手法、プロジェクトマネジメント、タイムマネジメント
6	マネジメントについて理解する	ITサービスマネジメント、システム監査
7	企業活動と法務について理解する	財務諸表、損益分岐点と資産管理、知的財産権
8	企業活動と法務について理解する	セキュリティ関連法規、労働関連・取引関連法規、業務分析
9	企業活動と法務について理解する	データ利活用と問題解決、標準化
10	経営戦略とシステム戦略について理解する	第4次産業革命とビッグデータ、企業活動、企業統治と内部統制
11	経営戦略とシステム戦略について理解する	経営戦略、情報システム戦略と業務プロセス、マーケティング戦略
12	経営戦略とシステム戦略について理解する	技術戦略、業績評価と経営管理システム、ビジネスシステムとエンジニアリング、e-ビジネス
13	1年のまとめ	模擬試験
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	表現研究Ⅱ		（ TGB170 ）
講義名（コード）	表現研究Ⅱ A		（ TGB170A ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	中村 久子	時間数	30時間
成績評価教員	中村 久子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、幅広くかつ抽象的な日本語の話題が理解できるようになる。
全体的内容と概要	N2レベルの文法と聴解を学ぶ。試験形式の演習を行いJLPTのN2に合格する力をつける。また、フォーマルな言い方や書き言葉を学び、状況に応じた日本語を使い分けられるようにする。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	9/30 必修パターンN2聴解 ポイント理解 19～22 どんなときどう使う日本語表現文型500
2	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	10/7 必修パターンN2聴解 概要理解 23～26 どんなときどう使う日本語表現文型500 課題配布
3	質問に対する的確な答えが書ける。	10/14 演習問題 (スポーツの日)
4	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	10/21 必修パターンN2聴解 即時応答 31～39 どんなときどう使う日本語表現文型500
5	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	10/28必修パターンN2聴解 即時応答 40～48 どんなときどう使う日本語表現文型500 課題配布
6	質問に対する的確な答えが書ける。	11/4 (振替休日)
7	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	11/11 必修パターンN2聴解 統合理解 53～56 どんなときどう使う日本語表現文型500
8		11/18 JLPT模試
9		11/25JLPT模試 12/1 JLPT
10	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	12/2必修パターンN2聴解 TRYN2 文法
11	総合的な聴解力を身につける。	12/9 必修パターンN2聴解 模試問題 どんなときどう使う日本語表現文型500
12	総合的な聴解力を身につける。N2文法の定着を図る	12/16 後期のまとめ 課題配布
13	質問に対する的確な答えが書ける。	12/23 演習問題
14	期末試験	1/20 学期試験
15	追試・フィードバック	1/27 Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必修パターン聴解 N2 どんなときどう使う日本語表現文型500
参考文献・資料等	
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	表現研究Ⅱ		（ TGB170 ）
講義名（コード）	表現研究Ⅱ B		（ TGB170B ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	中村 久子	時間数	30時間
成績評価教員	中村 久子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が就業後の課題遂行能力を高めるために、幅広くかつ抽象的な日本語の話題が理解できるようになる。
全体的内容と概要	N2レベルの文法と聴解を学ぶ。試験形式の演習を行いJLPTのN2に合格する力をつける。また、フォーマルな言い方や書き言葉を学び、状況に応じた日本語を使い分けられるようにする。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、定着をはかる。	9/25 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
2	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	10/2 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
3	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、定着をはかる。	10/9 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
4	即時に反応できる聴解力を身に着ける。	10/16 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
5	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、定着をはかる。	10/23 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
6	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	10/30 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
7	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、定着をはかる。	11/6 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
8	即時に反応できる聴解力を身に着ける。	11/13 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
9		11/20 JLPT模試
10		11/27 JLPT模試 12/1 JLPT
11	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、定着をはかる。	12/4 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
12	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	12/11 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
13	即時に反応できる聴解力を身に着ける。	1/15 総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
14	期末試験	1/23 学期試験
15	追試・フィードバック	1/29 Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	総まとめ聴解N2 総まとめ文法N2
参考文献・資料等	適宜会話練習、定着確認
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	文書理解Ⅱ		（ TGB172 ）
講義名（コード）	文書理解Ⅱ A		（ TGB172A ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	竹内 通子	時間数	30時間
成績評価教員	竹内 通子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体の内容と概要	N2の文字語彙文法を中心に学ぶ。試験形式と同様の4択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。試験形式とは異なるが、語彙を書かせる問題にも取り組みしっかりとした定着を目指す。
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	語彙・グラフでの内容理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step 1 Level 2 練習問題 5 日目
2	語彙・図での内容理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step 1 Level 2 練習問題 6 日目
3	語彙・比較問内容理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step 1 Level 2 練習問題 7 日目
4	語彙・グラフ内容理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step 1 Level 2 練習問題 8 日目
5	語彙・比較問内容理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step 1 Level 2 練習問題 9 日目
6	図・表・比較問内容理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step 1 Level 2 練習問題 10 日目
7	文法・接続詞・副詞理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step 2 Level 3 ⑦
8	文法・接続詞・副詞理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step 2 Level 3 ⑧
9	JLPT模試	JLPT模試 N2 読解解説
10	JLPT模試	JLPT模試 N2 読解解説
11	文法・接続詞・副詞理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step 2 Level 4 11 日目
12	文法・接続詞・表理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step 2 Level 4 12 日目
13	文法・図・接続詞副詞理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step 2 Level 4 13 日目
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必ずできる！ JLPT「読解」 N2 パワードリルN2 文字語彙
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	文書理解Ⅱ		（ TGB172 ）
講義名（コード）	文書理解Ⅱ B		（ TGB172B ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	槌谷 智子	時間数	30時間
成績評価教員	槌谷 智子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が異なる母語を持つ他者と誤解なく意思疎通できるために、身近な話題について事実や要点を明確に伝えられるようになる。
全体的内容と概要	N2レベルの漢字・語彙を学ぶ。漢字や熟語を理解し、正確に読むことができるようにする。漢字については書く練習も行っていく。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	漢字の習得 漢字「大・中」を使った語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 14課 総まとめ語彙N2 第5週 2 日目
2	漢字の習得 漢字「地・発」を使った語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 15課 総まとめ語彙N2 第5週 4 日目
3	漢字の習得 漢字「気・家」を使った語彙の習得	どんどんつながる漢字練習帳 16課 総まとめ語彙N2 第5週 6 日目
4	漢字の習得 カタカナで書く言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 17課 総まとめ語彙N2 第6週 2 日目
5	漢字の習得 カタカナで書く言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 18課 総まとめ語彙N2 第6週 4 日目
6	漢字の習得 似ている言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 19課 総まとめ語彙N2 第6週 6 日目
7	漢字の習得 意味がたくさんある言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 20課 総まとめ語彙N2 第7週 2 日目
8	漢字の習得 意味がたくさんある言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 21課 総まとめ語彙N2 第7週 4 日目
9	漢字の習得 言葉の後ろにつく語の習得	どんどんつながる漢字練習帳 22課 総まとめ語彙N2 第7週6日目
10	漢字の習得 よく使われる表現の習得	どんどんつながる漢字練習帳 23課 総まとめ語彙N2 第8週1日目
11	漢字の習得 よく使われる表現の習得	どんどんつながる漢字練習帳 24課 総まとめ語彙N2 第8週 3 日目
12	漢字の習得 よく使われる表現の習得	どんどんつながる漢字練習帳 25課 総まとめ語彙N2 第8週 5 日目
13	漢字の習得 よく使われる表現の習得	どんどんつながる漢字練習帳 26課 総まとめ語彙N2 復習
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	どんどんつながる漢字練習帳 中級、総まとめ語彙N2
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	異文化コミュニケーションⅡ		（ TGB174 ）
講義名（コード）	異文化コミュニケーションⅡA		（ TGB174A ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	渋谷里美	時間数	30時間
成績評価教員	渋谷里美	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	プレゼンテーション

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	異文化理解を深め、文化背景の異なる人と一緒に働き、学び、生活するために必要なコミュニケーション能力の向上を目指す。
全体の内容と概要	日本語の表現や文化的な背景について学び、実践的なコミュニケーション能力を高めるために、講義、ペアワーク、グループディスカッション、発表などの活動を組みわせる。
授業時間外の学修	提示されたテーマについて理解を深めるための学習が必須である。
履修上の注意事項等	配布したプリントはファイルしておくこと。自身の考えを他者に伝え、聞くために積極的に授業に参加する姿勢が必要である

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	文化を越えて共通するテーマについて異文化の人々と話し合う。	読解厳選テーマ 10 中級 テーマ6 内容把握 漢字マスターN2
2	様々な文化を理解し、強制するための努力ができる。	読解厳選テーマ 10 中級 テーマ6 発表 漢字マスターN2
3	日本文化に興味を持つことができる。	時事（ニュースなど） 内容把握 漢字マスターN2
4	最近のニュースについて自分の意見を交えて説明する。	時事（ニュースなど） 意見を交換しグループで発表 漢字マスターN2
5	当たり前のことに対して疑問をもつ視点を身につける。	読解厳選テーマ 10 テーマ7 内容把握 漢字マスターN2
6	小さなことについて面白く魅力的に説明する。	読解厳選テーマ 10 テーマ7 発表 漢字マスターN2
7	他者の生き方から様々な学びを得る。	読解厳選テーマ 10 テーマ8 内容把握 漢字マスターN2
8	他者の人生について説明することができる。	読解厳選テーマ 10 テーマ8 発表 漢字マスターN2
9	事象を的確に捉え、問題点を素早く分析し自分の意見をまとめる。	読解厳選テーマ 10 テーマ9 内容把握 漢字マスターN2
10	説得力のある話ができる。	読解厳選テーマ 10 テーマ9 発表 漢字マスターN2
11	微妙なニュアンスの違いを理解しながら内容を把握することができる。	読解厳選テーマ 10 テーマ10 内容把握 漢字マスターN2
12	日常の些細な差異についてわかりやすく説明することができる。	読解厳選テーマ 10 テーマ10 発表 漢字マスターN2
13	後期の授業をふりかえる	後期の復習
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	日本語学習者のための 読解厳選テーマ10 中級 漢字マスターN2
参考文献・資料等	適宜配布する
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	異文化コミュニケーションⅡ		（ TGB174 ）
講義名（コード）	異文化コミュニケーションⅡB		（ TGB174B ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB1	単位数	1単位
授業担当者	竹内 通子	時間数	30時間
成績評価教員	竹内 通子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体的内容と概要	N2の読解を中心に学ぶ。
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	語彙・グラフでの内容理解	必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step 1 Level 2 練習問題 5 日目
2	語彙・図での内容理解	必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step 1 Level 2 練習問題 6 日目
3	語彙・比較問内容理解	必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step 1 Level 2 練習問題 7 日目
4	語彙・グラフ内容理解	必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step 1 Level 2 練習問題 8 日目
5	語彙・比較問内容理解	必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step 1 Level 2 練習問題 9 日目
6	図・表・比較問内容理解	必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step 1 Level 2 練習問題 10 日目
7	文法・接続詞・副詞理解	必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step 2 Level 3 ⑦
8	文法・接続詞・副詞理解	必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step 2 Level 3 ⑧
9	JLPT模試	JLPT模試 N2 読解解説
10	JLPT模試	JLPT模試 N2 読解解説
11	文法・接続詞・副詞理解	必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step 2 Level 4 11 日目
12	文法・接続詞・表理解	必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step 2 Level 4 12 日目
13	文法・図・接続詞副詞理解	必ずできる！ JLPT「読解」 N2 Step 2 Level 4 13 日目
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必ずできる！ JLPT「読解」 N2
参考文献・資料等	
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネス日本語Ⅱ		（ TGB176 ）
講義名（コード）	ビジネス日本語Ⅱ A		（ TGB176A ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	伊東 かつみ	時間数	30時間
成績評価教員	伊東 かつみ	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体的内容と概要	N2の文字語彙文法を中心に学ぶ。試験形式と同様の4択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。漢字の意味把握と書き換えが瞬時にできるレベルにする
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

副詞		
回	到達目標	授業内容
1	食に関する言葉の理解	2 章； 1 課；食生活、程度副詞、
2	日常的な用語の使い方理解	2 課;家事、副詞、口語と文語、練習問題、漢字の読みかた、グループワーク
3	病気の時	3 課；健康、副詞で作文、的を使った言葉、練習問題
4	芸術	3 章；趣味娯楽、語形成 グループワーク 面接の練習、自己紹介
5	出張等の説明ができる	4 章； 1 課旅行、交通、漢字の読み方、訓読み、音読み、ペアワーク
6	天気について説明できる	2 課；自然 天気、自然に使う副詞
7	教育と仕事	5 章 1 課 学校、面接での自己紹介、他己紹介、関係副詞
8	教育と仕事	2 課；仕事用語、働く副詞、1 週間の仕事の説明
9	行事と 災害	7 章： 1 課 行事、N2 練習問題
10	行事と 災害	2 課;事故、災害 N 2 練習問題
11	新聞が読めるようになる	3 課；経済、産業、今の世界の景気について作文、グループワーク
12	新聞が読めるようになる	4 課；法律、歴史、新聞から記事を探す
13	新聞が読めるようになる	8 章科学、1 課自然、環境、環境問題のニュースを調べる、試験の説明
14	後期末試験	試験
15	試験の解説	試験のフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	完全マスターの語彙N2
参考文献・資料等	必要に応じたパワーポイント
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネス日本語Ⅱ		（ TGB176 ）
講義名（コード）	ビジネス日本語ⅡB		（ TGB176B ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	GB1	単位数	2単位
授業担当者	槌谷 智子	時間数	30時間
成績評価教員	槌谷 智子	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が異なる母語を持つ他者と誤解なく意思疎通できるために、身近な話題について事実や要点を明確に伝えられるようになる。
全体的内容と概要	N2レベルの漢字・語彙を学ぶ。漢字や熟語を理解し、正確に読むことができるようにする。漢字については書く練習も行っていく。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	漢字の習得 漢字「年・日」を使った名詞の習得	どんどんつながる漢字練習帳 14課 総まとめ語彙N2 第5週 1 日目
2	漢字の習得 漢字「生・学」を使った名詞の習得	どんどんつながる漢字練習帳 15課 総まとめ語彙N2 第5週 3 日目
3	漢字の習得 漢字「手・合」を使った名詞の習得	どんどんつながる漢字練習帳 16課 総まとめ語彙N2 第5週 5 日目
4	漢字の習得 カタカナで書く言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 17課 総まとめ語彙N2 第 6 週 1 日目
5	漢字の習得 似ている言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 18課 総まとめ語彙N2 第6週 3 日目
6	漢字の習得 似ている言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 19課 総まとめ語彙N2 第6週 5 日目
7	漢字の習得 意味がたくさんある言葉の習得	どんどんつながる漢字練習帳 20課 総まとめ語彙N2 第7週 1 日目
8	漢字の習得 言葉の前につく語の習得	どんどんつながる漢字練習帳 21課 総まとめ語彙N2 第7週 3 日目
9	漢字の習得 言葉の後ろにつく語の習得	どんどんつながる漢字練習帳 22課 総まとめ語彙N2 第7週5日目
10	漢字の習得 演習	どんどんつながる漢字練習帳 23課 JLPT語彙模擬試験
11	漢字の習得 よく使われる表現の習得	どんどんつながる漢字練習帳 24課 総まとめ語彙N2 第8週 2 日目
12	漢字の習得 よく使われる表現の習得	どんどんつながる漢字練習帳 25課 総まとめ語彙N2 第8週 4 日目
13	後期の内容の理解と定着	どんどんつながる漢字練習帳 26課 総まとめ語彙N2 第8週6日目
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	どんどんつながる漢字練習帳 中級、総まとめ語彙N2
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	経営戦略 II		（ TGB114 ）
講義名（コード）	経営戦略 II		（ TGB114 ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	伊藤 頌太郎	時間数	30時間
成績評価教員	伊藤 頌太郎	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は実務経験者による授業科目である。□ □	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	企業を経営するための様々な戦略の概要を理解する。 特に企業の様々な関係者とどのように関わるのかを考える。
全体の内容と概要	各回に紹介するキーワードを理解し、主体的に考えを説明できるようにする。
授業時間外の学修	わからないキーワードを調べる。企業に関するニュースを見る。
履修上の注意事項等	講義形式だけではなく、ディスカッションも適宜取り入れるので、社会に目を向けるようにしておく。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 40%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 30%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション：広告と広報の違いを理解	広告・広報の目的と役割を整理する
2	広告戦略の基礎を理解	ターゲット・媒体・訴求軸を設計する方法
3	メディア戦略①：マス広告を理解	テレビ・新聞・ラジオなどの特性を理解する
4	メディア戦略②：SNSとインフルエンサーを理解	デジタル時代の新しい広告手法を学ぶ
5	クリエイティブ戦略を理解	コピーライティングとビジュアル表現の基本
6	広告の効果測定を理解	KPIとROIで施策を評価する方法
7	広告倫理とコンプライアンスを理解	炎上・誤解・法令違反をどう防ぐか
8	広報戦略の基礎を理解	PRの定義と広告との違いを再確認する
9	メディアリレーションズとプレスリリースを理解	メディアと信頼関係を築く技術
10	クライシス・コミュニケーションを理解	謝罪会見と情報コントロールの現場
11	IR・CSR・SDGsと広報を理解	投資家・社会への説明責任を果たすには
12	社内広報と企業文化を理解	働く人の共感と行動を引き出す広報
13	広報・広告の統合設計を理解	組織の総合戦略としての統一感を考える
14	後期まとめ	学びの再確認と実社会への応用ヒント
15	テスト	後期内容の理解度を測り今後へつなげる

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし：プリント、レジュメを使用する
参考文献・資料等	必要に応じて、都度指示する。
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	Entrepreneur概論 II		（ TGB122 ）
講義名（コード）	Entrepreneur概論 II		（ TGB122 ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	伊藤 頌太郎	時間数	30時間
成績評価教員	伊藤 頌太郎	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は実務経験者による授業科目である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	
全体の内容と概要	各回に紹介するキーワードを理解し、主体的に考えを説明できるようにする。
授業時間外の学修	わからないキーワードを調べる。企業に関するニュースを見る。
履修上の注意事項等	講義形式だけではなく、ディスカッションも適宜取り入れ、成績に反映するので、社会に目を向けるようにしておく。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	起業が身近な日本社会で、社会に対して広く深い視点を持つことの大切さを理解する。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	強みをつくって守って伸ばせ①	強みとは何か
2	強みをつくって守って伸ばせ②	強みの生み方作り育て方
3	自分の考えを事業計画書にまとめてみよう①	事業計画書の大切さ
4	自分の考えを事業計画書にまとめてみよう②	事業計画書の作り方
5	最良チームをつくる①	起業のジレンマ
6	最良チームをつくる②	経営ビジョンの共有と成長に伴う課題
7	お金を調達する①	融資と出資
8	お金を調達する②	成長ステージと資金調達
9	お金の流れを管理しよう①	キャッシュフローの重要性
10	お金の流れを管理しよう②	キャッシュフローと企業の成長段階
11	成長することの楽しさ、難しさを知ろう①	ベンチャー企業の成長段階
12	成長することの楽しさ、難しさを知ろう②	成長の楽しさ・難しさ
13	ゴールの先に向けて①	事業のゴール設定
14	ゴールの先に向けて②	ベンチャー企業と株式
15	テスト	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	忽那 憲治, 長谷川 博和, 高橋 徳行, 五十嵐 伸吾, 山田 仁一郎 (2022) 『アントレプレナーシップ入門』 (有斐閣)
参考文献・資料等	必要に応じて、都度指示する。
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	マーケティング概論		（ TGB146 ）
講義名（コード）	マーケティング概論		（ TGB146 ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	伊藤 頌太郎	時間数	30時間
成績評価教員	伊藤 頌太郎	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は実務経験者による授業科目である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	マーケティングの基本を理解して他の科目とのつながりを考える。
全体の内容と概要	各回に紹介するキーワードを理解し、主体的に考えを説明できるようにする。
授業時間外の学修	わからないキーワードを調べる。企業に関するニュースを見る。
履修上の注意事項等	講義形式だけではなく、ディスカッションも適宜取り入れるので、社会に目を向けるようにしておく。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 40%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 30%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	この授業で何を学ぶか
2	マーケティングって何？基礎から理解しよう	4P（製品・価格・流通・プロモーション）の概要
3	消費者はなぜ買うのか？行動のしくみ	消費者心理・購買プロセス（AIDMA・AISAS）
4	消費者の心理を読み解く	セグメント・ターゲット・ポジショニング（STP分析）
5	ライバルに勝つ戦略とは？	競争優位性の考え方（3C分析、SWOT分析）
6	中間テスト	中間テスト
7	商品の魅力をどう作る？	製品ライフサイクル（導入期・成長期・成熟期・衰退期）
8	値段のつけ方に隠された戦略	価格設定の基本（コスト・バリュー・競争ベース）
9	商品はどこまで届くのか？	チャネル戦略（直接販売・小売・EC・卸売の違い）
10	広告・販促の基本をおさえよう	広告・PR・販売促進の基本（マスメディア・デジタル）
11	心を動かすプロモーションの実例	SNS・口コミ・インフルエンサーマーケティング
12	ブランドが生む価値と信頼	ブランドとは何か？ブランド価値の作り方
13	データで読み解く顧客の声	市場調査の方法（アンケート・観察・インタビュー）
14	まとめ	まとめ
15	期末テスト	期末テスト

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし：プリント、レジュメを使用する
参考文献・資料等	必要に応じて、都度指示する。
備考	